



平成23年9月期 第1四半期決算短信(日本基準)(非連結)

平成23年2月9日

上場取引所 東

上場会社名 日本ファルコム
コード番号 3723 URL <http://www.falcom.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 近藤 季洋

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 阿部 敬史

TEL 042-527-0555

四半期報告書提出予定日 平成23年2月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年9月期第1四半期の業績(平成22年10月1日～平成22年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年9月期第1四半期	295	129.5	88		89		58	
22年9月期第1四半期	128	57.6	53		52		30	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年9月期第1四半期	570.67	567.11
22年9月期第1四半期	296.06	

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年9月期第1四半期	1,775	1,666	93.9	16,338.55
22年9月期	1,996	1,659	83.1	16,267.88

(参考) 自己資本 23年9月期第1四半期 1,666百万円 22年9月期 1,659百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年9月期				500.00	500.00
23年9月期					
23年9月期(予想)				300.00	300.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年9月期の業績予想(平成22年10月1日～平成23年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	277	35.1	117		117		70		
通期	1,100	9.4	120	58.2	120	58.5	75	52.8	735.29

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他 (詳細は、[添付資料]P.3「2その他」をご覧ください。)

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 無

(注)簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

会計基準等の改正に伴う変更 有
以外の変更 無

(注)「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	23年9月期1Q	102,000株	22年9月期	102,000株
期末自己株式数	23年9月期1Q	株	22年9月期	株
期中平均株式数(四半期累計)	23年9月期1Q	102,000株	22年9月期1Q	102,000株

四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)P.3「1. 当四半期の業績等に関する定性的情報(3)業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

添付資料の目次

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	2
(3) 業績予想に関する定性的情報	2
2. その他の情報	3
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	3
(3) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 継続企業の前提に関する注記	7
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	7
(6) セグメント情報	7

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当社はコンテンツメーカーとして、オリジナリティあふれるゲームコンテンツ及びサービスの創出を行い、その魅力を様々な分野・プラットフォームを通じて世界中のお客様にお伝えすることに努めております。

当第1四半期会計期間の製品部門におきましては、平成22年9月30日にプレイステーションポータブル(以下「PSP」という。)向けに発売した「英雄伝説 零の軌跡」が根強い人気により販売数を伸ばしました。この「英雄伝説 零の軌跡」は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントが主催する「プレイステーション®アワード2010」においてユーザーにより選出される「ユーザーズチョイス賞」を受賞しました。現在も口コミなどでさらに広まりをみせており、この累計販売本数が100万本を突破した「軌跡」シリーズは今後更なる期待がもてるメジャーシリーズとなりました。

また、ロングセラー中の「空の軌跡」シリーズの全3部作「英雄伝説 空の軌跡FC」、「英雄伝説 空の軌跡SC」、「英雄伝説 空の軌跡the3rd」を「PSP® the Best」シリーズとして発売しました。その他、「イース ナビシュテムの匣」、「イースフェルガナの誓い」、「イースオリジン」、「ザナドゥNEXT」のPC向けゲームソフトをWindows7対応版として発売しました。

その結果、製品部門の当第1四半期会計期間の売上高は228百万円(前年同期比123.8%増)となりました。

ライセンス部門におきましては、携帯電話機向けのライセンス及び海外へのライセンス、各種グッズなどが堅調に推移しました。

その結果、ライセンス部門の当第1四半期会計期間の売上高は67百万円(前年同期比151.1%増)となりました。

それらの結果、当第1四半期会計期間の業績は、売上高は295百万円(前年同期比129.5%増)、営業利益は88百万円(前年同期は営業損失53百万円)、経常利益は89百万円(前年同期は経常損失52百万円)、四半期純利益は58百万円(前年同期は四半期純損失30百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期会計期間末における総資産は1,775百万円となり、前事業年度末と比較して221百万円の減少となりました。これは主に現金及び預金が増加したこと等によるものであります。

当第1四半期会計期間末における負債は109百万円となり、前事業年度末と比較して227百万円の減少となりました。これは主に未払法人税等及び買掛金が減少したこと等によるものであります。

当第1四半期会計期間末における純資産は1,666百万円となり、前事業年度末と比較して7百万円の増加となりました。これは利益剰余金が配当により51百万円減少したものの、四半期純利益を58百万円計上したためであります。

キャッシュ・フローの状況

当第1四半期会計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末と比較して238百万円増加し、1,567百万円となりました。各キャッシュ・フローの主な状況は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果増加した資金は281百万円(前年同期は146百万円の増加)となりました。これは主として、税引前四半期純利益を91百万円計上したこと及び売上債権の減少439百万円による資金増があったものの、法人税等の支払額が115百万円あったこと、仕入債務が98百万円減少したこと、未払消費税が17百万円減少したためであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果減少した資金は63千円(前年同期は1百万円の減少)となりました。これは敷金保証金の差入による支出63千円があったためであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果減少した資金は42百万円(前年同期は26百万円の減少)となりました。これは配当金の支払いによる支出が42百万円あったためであります。

(3) 業績予想に関する定性的情報

当第1四半期の業績は、「英雄伝説 零の軌跡」の人気の影響がありましたが、第2四半期の業績予想につきましては、必要に応じて、速やかにお知らせします。

2. その他の情報

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

当第1四半期会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、営業利益及び経常利益はそれぞれ83千円減少し、税引前四半期純利益は609千円減少しています。

(3) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	当第1四半期会計期間末 (平成22年12月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,567,783	1,328,874
売掛金	71,844	510,974
製品	1,984	2,198
原材料	6,815	7,732
その他	32,025	47,092
貸倒引当金	763	3,236
流動資産合計	1,679,690	1,893,636
固定資産		
有形固定資産	15,040	16,277
無形固定資産	9,225	9,887
投資その他の資産	71,725	76,438
固定資産合計	95,991	102,603
資産合計	1,775,682	1,996,240
負債の部		
流動負債		
買掛金	20,528	119,212
未払法人税等	12,578	118,235
賞与引当金	4,500	17,250
その他	71,542	82,219
流動負債合計	109,149	336,916
負債合計	109,149	336,916
純資産の部		
株主資本		
資本金	162,530	162,530
資本剰余金	317,763	317,763
利益剰余金	1,186,239	1,179,030
株主資本合計	1,666,532	1,659,323
純資産合計	1,666,532	1,659,323
負債純資産合計	1,775,682	1,996,240

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第1四半期累計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
売上高	128,863	295,762
売上原価	47,364	72,773
売上総利益	81,498	222,988
販売費及び一般管理費	135,082	134,880
営業利益又は営業損失()	53,583	88,108
営業外収益		
未払配当金除斥益	1,139	1,058
営業外収益合計	1,139	1,058
経常利益又は経常損失()	52,443	89,166
特別利益		
貸倒引当金戻入額	1,779	2,473
特別利益合計	1,779	2,473
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	526
特別損失合計	-	526
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失()	50,664	91,113
法人税、住民税及び事業税	132	12,747
法人税等調整額	20,598	20,157
法人税等合計	20,466	32,905
四半期純利益又は四半期純損失()	30,198	58,208

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第1四半期累計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 ()	50,664	91,113
減価償却費	4,999	1,898
貸倒引当金の増減額(は減少)	1,779	2,473
賞与引当金の増減額(は減少)	10,350	12,750
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	526
売上債権の増減額(は増加)	315,935	439,130
たな卸資産の増減額(は増加)	2,070	1,130
その他の資産の増減額(は増加)	1,211	839
仕入債務の増減額(は減少)	55,748	98,683
未払金の増減額(は減少)	33,571	7,958
未払消費税等の増減額(は減少)	8,759	17,772
その他の負債の増減額(は減少)	1,476	4,126
小計	160,678	397,448
法人税等の支払額	14,181	115,853
営業活動によるキャッシュ・フロー	146,496	281,595
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	1,150	-
敷金及び保証金の差入による支出	-	63
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,150	63
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	26,699	42,623
財務活動によるキャッシュ・フロー	26,699	42,623
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	118,647	238,908
現金及び現金同等物の期首残高	1,180,060	1,328,874
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,298,708	1,567,783

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報

当社はゲーム開発・販売の単一セグメントのため、記載を省略しております。

(追加情報)

当第1四半期会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。